

No. 118

せたがやの教育

特集

令和5年度 教育委員会の予算



★教えて★
せたがやの星

令和5年7月14日 発行
世田谷区教育委員会

〒154-8504 世田谷区世田谷4-21-27 ☎5432-1111(代)
世田谷区ホームページ <https://www.city.setagaya.lg.jp>



区の手続きや施設・イベント案内は

せたがやコール ☎5432-3333 FAX 5432-3100

午前8時～午後9時
年中無休

棋士 (将棋)

伊藤 匠 六段



特集 令和5年度 教育委員会の予算

世田谷区の令和5年度の教育委員会の予算（一般会計）は、学校給食費の無償化等により、前年度より86億1,478万8千円増（前年度比37.4%増）の316億6,461万2千円となりました。

持続可能な開発目標（SDGs）や教育デジタルトランスフォーメーション（教育DX）の推進、新たな学びの展開などを踏まえ、教育総合センターを核として、積極的に「キャリア・未来デザイン教育」に取り組んでいきます。

今号では教育委員会の予算の主な項目をお知らせします。

教育費予算額（教育委員会所管分）が区の一般会計を占める割合は約8.7%



学校給食費を無償化します

予算額 30億1,069万9千円

◆区立小・中学校における学校給食費無償化

26億5,927万9千円

（就学援助等の既公費負担分約7億円を含む）

学校給食に係る児童・生徒の学校給食費相当分を区が全額公費負担することで無償化します。

※令和6年度以降は、改めて検討を行います。

◆給食用食材費高騰への対応

2億7,153万2千円

令和4年度に引き続き、高騰する食材費の増額分を無償化の対象として支援します。



◆給食室改修工事に伴う給食停止期間中の

保護者負担軽減

7,988万8千円

給食室改修工事に伴い、弁当持参等にかかる負担の支援（※360円）を実施します。また、希望する家庭が民間事業者の弁当を注文できるよう対応します。（令和5年度対象：小学校2校）



※臨時的な対応として学校給食費無償化を実施することから、食材費単価相当分270円を上乗せし、1日当たり630円を支給します。

問 学校健康推進課 ☎5432-2697 FAX 5432-3029

不登校児童・生徒を支援します

予算額 1億1,566万7千円

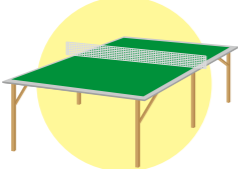
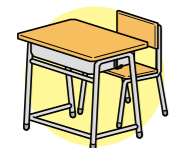
◆不登校特例校分教室ねいろ

1,979万9千円

不登校生徒の入室生徒数の増加に対応するため、教室の増設や備品の購入等、教育環境の整備を行います。



ねいろの様子



ほっとスクールの様子

◆ほっとスクール

8,801万6千円

不登校の状態にある児童・生徒が、社会性や協調性を育み自立心を養い、学校生活への復帰や自分らしい進路の実現をめざします。

◆ほっとルームせたがYah! オンライン(ONLINE)

785万2千円

不登校及び不登校傾向の児童・生徒を対象に、タブレット型情報端末等を利用したオンラインによる学習支援や子ども同士のコミュニケーションを図ることができる居場所支援、複数参加によるクイズ大会などの体験プログラムの提供、保護者も利用可能なマンツーマンの個別相談支援などを行います。

問 教育相談課 ☎6453-1511 FAX 6453-1534

ICT基盤を活用した新たな教育を推進します

予算額 12億8,613万6千円

ICT基盤を効果的に活用し、「教育DX」を推進します。

- 学校の統合型校務支援システムの本格運用を開始します
- ICT支援員の配置を拡充します
- プログラミング教材を区立中学校全校に導入します



問 教育研究・ICT推進課 ☎6453-1506 FAX 6453-1534

区立中学校部活動の地域移行への取り組みを推進します

予算額 1億1,109万円

中学校部活動を、地域で行うスポーツ・文化活動へ参加する形に変えるため、モデル事業を行っています。

- 部活動地域移行トライアル事業を実施します
- 地域移行の検討会等を実施しています
- 部活動支援員の環境を強化します



問 地域学校連携課 ☎5432-2723 FAX 5432-3025

特別支援教育を推進します

予算額 7億5,298万7千円

配慮を必要とする子どもたち一人ひとりの教育的ニーズに対応します。

- 増加する医療的ケアが必要な児童・生徒への看護師等の配置の充実を図ります
- 特別支援学級支援員の配置を拡充します
- 増加する配慮を要する子どもたちに対応するため、学校生活サポーターを拡充します



〈自閉症・情緒障害特別支援学級〉の朝の様子

問 支援教育課 ☎6453-1514 FAX 6453-1534

教育総合センターでの取り組みを進めます

予算額 5,737万円

学校や子ども全体を支える学びの拠点となる教育総合センターにてさまざまな事業を行います。

- 幅広い年代向けの英語体験プログラムを通して、国際理解教育を実施します
- プログラミングや科学実験などさまざまなSTEAM教育講座を実施します
- 区立小・中学校、区立幼稚園等と大学・企業の協働研究や研修講師派遣などの連携事業を実施します



STEAM教育講座の様子

問 教育研究・ICT推進課 ☎6453-1536 FAX 6453-1534

図書館サービスを推進します

予算額 6億5,766万2千円

誰もが利用しやすい、図書館を実現します。

- 梅丘図書館を改築します
- 各図書館にタブレット端末を配備し、レファレンス(※)などに活用します



※お探しの資料が見つからないときや調べかたがわからないときに、図書館員がお手伝いすること

問 中央図書館 ☎3429-1811 FAX 3429-7436

学校の整備・改築を進めます

予算額 39億1,428万2千円

児童・生徒のより良い教育環境の実現をめざし、計画的に学校の施設整備を進めています。

- 改築工事
池之上小学校、瀬田小学校
- 一部改築工事
八幡中学校
- 基本構想策定等
砧小学校、弦巻中学校、奥沢中学校
- 耐震補強工事
池尻小学校、駒留中学校、緑丘中学校



池之上小学校改築イメージ

問 教育環境課 ☎5432-2659 FAX 5432-3029

問 教育総務課 ☎5432-2745 FAX 5432-3028

学びの可能性は無限大

せたがやのICT教育

iPadが学習道具として子どもたちの手に届き、学び方は大きく変わってきました。カメラを使えば自分の気づきをすぐにシェアできます。地図アプリではそこにいるような臨場感のある学びができて、AR（拡張現実）では見たこともない景色に出会えます。何を学ぶか、どう学ぶか、子どもたちの学び方はまだまだ広がります。

世田谷区では、ICTを活用した学びの可能性を広げ続けるために、教員研修を行っています。



1 企業と連携し先進的に取り組むモデル校

モデル校では、先生方がとにかくアプリにたくさん触れる研修をしました。新たな発見の連続があり、今までの学びがつながることに気づき、先生たちも楽しみながらICTスキルが向上しました。

ICTの推進はこれからもすべての学校で進めていきます。

<モデル校の取り組み>

モデル校同士で情報交換会
ICTアドバイザーによる講習会
アプリ別でワークショップ
授業プラン検討会 など



先生たちの意識の変化が授業にもあらわれてきました。授業の様子は右の2次元コードからご覧ください！



駒繫小1



駒繫小2



深沢中1



深沢中2

2 テクノロジー×学び = 可能性

企業本社での研修を行うことで、最先端の技術を知り、新しい学びを創造しています。

先生たちのICTスキル向上により、新しい学び方の可能性が広がりました。



3 無限大に広がる学び方

学びの主役はいつでも子どもたち。先生のサポートで、自分のイメージが画面を通してどんどん具現化していくことや、友達との意見交換も、未知への探究もiPadならすぐにできます。

ICTによって、すべての学びの幅が広がります。



☎ 教育研究・ICT推進課 ☎6453-1504 FAX 6453-1534

子どもには、意見を表明する権利があります

2023年4月、こども基本法が施行されました！

こども基本法 基本理念

1. すべてのこどもは大切にされ、基本的な人権が守られ、差別されないこと。
2. すべてのこどもは、大事に育てられ、生活が守られ、愛され、保護される権利が守られ、平等に教育を受けられること。
3. 年齢や発達 の程度により、自分に直接関係することに意見を言えたり、社会のさまざまな活動に参加できること。
4. すべてのこどもは年齢や発達 の程度に応じて、意見が尊重され、こどもの今とこれからのためによりよいことが優先して考えられること。
5. 子育ては家庭を基本としながら、そのサポートが十分に行われ、家庭で育つことが難しいこどもも、家庭と同様の環境が確保されること。
6. 家庭や子育てに夢を持ち、喜びを感じられる社会をつくること。

こども家庭庁ホームページ掲載「こども基本法パンフレット」より引用

子どもの声から始まる新しい教育

世田谷区では、2001年に「世田谷区子ども条例」を制定し、子どもの声をきく取り組みを始めています。

世田谷区子ども条例（2001年制定）

目標

1. 子ども一人ひとりが持っている力を思い切り輝かせるようにする。
2. 子どもがすこやかに育つことを手助けし、子どものすばらしさを発見し、理解して、子育ての喜びや育つ喜びを分かち合う。
3. 子どもが育っていく中で、子どもと一緒に地域の社会をつくる。

第11条 区は、子どもが参加する会議をつくるなどしていろいろな意見をきき、子どもが自主的に地域の社会に参加することができる仕組みをつくるよう努めていきます。

生徒会サミット

各学校の代表者が集まり、より良い学校づくりを目指して行動したことを共有し合うための会です。昨年から、その第一段階として「学校自慢」の動画の作成を始めました。学校の歴史を紐解き、その良さを効果的に発信するために、学校の枠を超えて意見を出し合いながら作成しました。各学校の自慢をぜひご覧ください。



学校自慢動画一覧



子どもネットフォーラム

子ども自身がネットいじめやネット依存から自分を守るために、自分の考えを話し合うためのフォーラムを開催しました。

世田谷区のめざす教育について、みんなで考えてみよう!!



令和6年度からの教育の計画の策定に向けて、当事者である児童・生徒の皆さんの考えを聞きました。

☎ 教育指導課 ☎5432-2703 FAX 5432-3041

障害者青年学級～障害のある人もない人も～

教育委員会では、障害のある人もない人も一緒に学び、交流することを目的に、障害者青年学級の取組みを行っています。ここで3つの学級、「いずみ学級」、「けやき学級」、「たんぽぽ学級」をご紹介します。

いずみ学級

義務教育を修了した知的障害のある人たちとその活動を支えるボランティアが、さまざまな活動を通して、共に学び交流しています。「クリスマス会」や「バスハイク」は特に人気の活動です。年間計画や活動内容は、実行委員会などの話し合いの場でアイデアを出し合いながら決めます。

けやき学級 (青年学級)

肢体不自由をはじめ、さまざまなハンディキャップのある人とない人が、企画会で計画を立て、個性を認め合いながら、皆でさまざまな経験を重ねています。



たんぽぽ学級

聴覚に障害のある人とない人が、手話を学びながら、互いの立場を理解し、交流を深めています。初心者から手話通訳者まで、一緒に活動しています。

問 生涯学習課 ☎3429-4259 FAX 3429-4267

共同調理場方式の学校給食

学校給食太子堂調理場は昭和49年に開設し、今は東京23区で唯一の共同調理場です。

現在、区内の中学校7校、また給食室改修中の小学校1校に給食を提供しており、1日約3,600食分を調理しています。

調理場では安全・安心であることはもちろんですが、行事や季節感を意識した献立や、できるだけ加工品や既製の食品などを使用しない手作りによる給食の提供など、栄養のバランスがとれたおいしい給食が提供できるよう、日々工夫しながら調理等に取り組んでいます。



回転釜を使用した調理の様子です。



トーストサンドもすべて手作業で作っています。



5月初めに端午の節句を意識した「中華五目おこわ」を用意しました。



化学調味料は使用せず、スープやだしは、鶏ガラや削り節、昆布等を使用しています。

問 学校給食太子堂調理場 ☎3410-2753 FAX 3424-4007

三宿中学校夜間学級

夜間学級とは？

公立中学校の夜間学級では、小学校や中学校を卒業していない（義務教育を修了していない）方や、さまざまな事情により中学校で十分に学べなかった方など、多様な生徒が一生懸命学んでいます。

三宿中学校夜間学級には、通常学級と日本語学級があり、年齢も国籍も異なるさまざまな人たちが一緒に学習しています。通常学級は一般の中学校と同じ9教科の学習を行い義務教育の修了をめざします。日本語学級は主に外国から来た方のために、日本語の習得を第一に授業を受け、半年から1年を目安に通常学級へ編入し卒業をめざします。

夜間学級の卒業後は、高校に進学する人や就職する人がいます。

令和4年度 卒業生の進路について

進路	男	女	合計
全日制高校	1	0	1
定時制高校	0	7	7
就職・その他	2	1	3
計	3	8	11

入級について

① いつでも入級の受付をしていますので、三宿中学校夜間学級までお問い合わせください。

② 入級資格

- ・ 学齢（満15歳の3月31日）を超えていること
- ・ 義務教育を修了していないこと
- ・ 東京都に在住・在勤していること



←夜間学級について詳しくはこちらへ
(政府広報オンライン)



問 三宿中学校夜間学級 ☎3424-5255 FAX 3424-5380

世田谷区のグリーンリサイクル

これからも枝や落葉等のリサイクルを続けていきます！



これまで枝や落葉などは、可燃ごみとして廃棄されていました。

世田谷区では、再資源化する取組みを進めており、小・中学校から回収される剪定枝等についてもリサイクルの検討を進めてきました。令和2年度にモデル事業を実施し、令和3年度から全小・中学校で枝や落葉等を、ごみとして廃棄するのではなく、堆肥やバイオマス発電の燃料にリサイクルしています。「環境に配慮した持続可能な社会」の実現に向けて、今後も取り組んでいきます。



枝や落葉等を、再生資源化施設に運びます。



細かくチップにし乾燥させます。堆肥バイオマス発電の燃料になります。



バイオマス発電所です。チップなどを燃料に発電しています。

問 教育環境課 ☎5432-2722 FAX 5432-3029

編集後記

伊藤匠六段の取材前に、将棋界について調べ、プロになることがいかに難しいかを知りましたが、伊藤六段は「プロになれるかを心配したことはない」と話され、厳しい世界で高みをめざす方は、強い信念があると感じました。また、プロになれたのは師匠や家族からの支えがあったからと話されていて、自身が成長していくためには周囲への感謝の気持ちを忘れてはならないと感じました。

多言語対応の電子書籍（デジタルブック）で配信をしています。

電子書籍（デジタルブック）「カタログポケット」内で、日本語から9カ国語への自動翻訳・音声読み上げ機能により、「せたがやの教育」を多言語で読む・聞くことができます。

二次元コードよりアプリをインストールするか、ブラウザ版でご覧ください。



次号119号は令和5年12月に発行予定です。お楽しみに！

王将



なにごと かんたん あきら
何事も簡単に諦めずに
ちようせん つづ たいせつ
挑戦し続けることが大切です。

きし しようぎ
棋士 (将棋)
いとう たくみ
伊藤 匠 六段
ろくだん

せたがやくりつるまきしがこう つるまきがっこうしんしん しようぎ きし いとうたくむろくだん
世田谷区立弦巻小学校・弦巻中学校出身の将棋棋士の伊藤匠六段にインタビュー。伊藤さんが五段から六段に昇段された翌日の4月21日に東京・将棋会館でインタビューをさせていただきました。三軒茶屋将棋倶楽部と奨励会での経験談や、棋士としての目標を語っていただきました。

Profile

2002年10月10日生まれ。世田谷区立弦巻小学校、弦巻中学校卒業。宮田利男八段門下。2013年9月に6級で奨励会に入会。2018年4月より奨励会三段リーグ入りし、2020年10月1日に四段に昇段。プロ入りを果たす。2021年度は第49回「新人賞」、「勝率一位賞」を受賞。2023年4月20日に六段に昇段。得意戦法は相掛かり。

しようぎくらぶ しようれいかい す どりよく ひび
将棋倶楽部・奨励会で過ごした努力の日々

はじめて しようぎ ふ きおく のこ
一初めて将棋に触れたときの記憶は残って
いらっしゃいますか。

5歳のときに、父にクリスマスプレゼントで将棋盤と駒をもらって始めました。将棋を始めて3か月ぐらいで三軒茶屋の将棋倶楽部に通い始めました。そこでどんどん上達しているという感じがあって、だんだんのめり込んでいきました。

さんげんちや しようぎくらぶ みやたとし おちだん
一三軒茶屋将棋倶楽部の宮田利男八段から
教わったことで印象深いことはありますか。

師匠の宮田八段は、ふだんはよく駄じゃれとかを言って、本当に面白い先生です。師匠とは年が50歳違うので、孫のように接してもらっていましたが、奨励会に入ることをめざすような子にはちょっと接し方が違ってくるといふか、厳しく接するときもあって、私自身あまり道場へ行きたくないと思う時期もありました。でも、プロになる上でもっと厳しい時期がありますので、そういう厳しさに耐えられるように、あえて厳しく接してくれたのかなと今になって思います。

しよくがう ねんせい のとき しようれいかい に入れ
一小学校5年生のときに奨励会に入ら
れて、将棋への向き合い方など、変化した部
分はありましたか。

私は小学校2年生から5年生ぐらいまでちょっと伸び悩んでいて、奨励会試験の合格もかなりぎりぎりだったのですが、奨励会に入っているのと入っていないのでは大きく違ったのかなと思います。奨励会の厳しいレベル・環境で将棋を指すことで、より気が引き締まって、自分自身がかなり成長することができました。



しよくがう ねんせい から ねんかん す しようれいかい
一小学5年生から7年間過ごされた奨励会
にはどのような思い出がありますか。

奨励会に入るような子はみんな強いですし、あまり同じ級に長くいてはいけないう上向心を持ってやれたのがよかったと思います。また、級が上がっていくにつれて1局1局の重みが増していきました。奨励会に入った頃はそんなに緊張感もなく、負けてもそこまで落ち込んでいなかったのですが、昇段するにつれて負けたときの悔しさが強くなりました。

しよくれいかい いん とき きし たいまく きらくかり
一奨励会員のとき、棋士の対局の記録係を
務められたことで、学びにつながる側面は
ありましたか。

対局している雰囲気を感じるのは非常に貴重な経験でした。棋士がこういう雰囲気に対局しているんだなとか、早くこういうふうに分も対局したいという気持ちも強くなりましたし、記録係は結構大変なんですけれども、私は好んでやっていました。

おな どし ふじい そうた せなか お
同い年の藤井聡太さんの背中を追って

しよくれいかい さんだん になつてから、プロの四段
一奨励会で三段になってから、プロの四段
になるまで約3年の間、プロになれるだろ
うかといった不安はありましたか。

プロになれるかどうかを心配したことはあまりありませんでしたが、既に同い年の藤井聡太さんが棋士として活躍されていて、自分も早くプロにならないと、どんどん置いていかれてしまうという焦りの感覚は常にありました。また、この頃は三段リーグで負けたときの悔しさはどんどん大きくなっていきました。でも、藤井さんのおかげで自分もここまで上がってこれたという気持ちはありますね。こういう存在がないとなかなかモチベーションも上がっていきません。

一プロとして難しさを感じた出来事がありますか。

デビューから2連敗して、全然プロとして通用しないんじゃないかという焦りはありましたがその後、少しずつ結果が出るようになり、年度最高勝率という結果も残せました。ただ、現状ではまだまだタイトルには及ばないような気がしているので、そういう危機感みたいなものは常にあります。

いとうろくだん がプロになれたのは、どうい
つた点に要因があると思いますか。

環境に恵まれていたということが大きいです。近くに師匠の三軒茶屋将棋倶楽部があったり、家族にもいろいろな大会とかに連れていってもらうなどして、支えてもらっていました。あとは、やっぱり同い年の藤井聡太さんの存在も大きかったですね。常に藤井さんが活躍されているので、自分も頑張らしたし、上に引き上げられていったのかなと思います。

一将棋はどのようなところがおもしろい
ですか。またどうしたら伊藤六段のように強
くなれますか。

将棋は、最初から最後まで自分一人の頭で考えて指していくゲームだと思うので、勝てたときの達成感が非常に大きいと思います。同じぐらいの棋力のライバルが身近にいと、お互い切磋琢磨してどんどん強くなれる気がします。

一今後どのような棋士になりたいですか。

いずれタイトル戦に出場して、タイトルを獲得できれば一番いいですけど、今は藤井聡太さんとタイトル戦で戦うのが一番の夢ですね。

一世田谷区の子どもたちに向けてメッセージを

自分は負けず嫌いな性格で、そのおかげで棋士になることができたのかなと思います。何をやるにしても大変なことはあると思うんですけど、簡単に諦めずに1つのことに挑戦し続ける姿勢が大切だと思います。